



情報科学芸術大学院大学附属図書館

vol. 18

2021.4

# IAMAS 図書館便り

IAMAS [イアマス] とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。



前林明次教授著作

## 特集 メディアアート 前林 明次

→自作を語る／思い出の一冊／学生に薦める一冊

●図書館長よりあいさつ

この特集では、IAMASの教員に、自著・思い出の一冊・お薦めの本などを紹介してもらいます。第18回は、前林明次教授です。



## →自作を語る

「閉じたループの外へ」 『OS10 アートとメディア・テクノロジーの展望 ICCオープン・スペース10年の記録 2006-2015』(東日本電信電話株式会社, 2016年) p.93

「場所をつくる旅について」 『情報科学芸術大学院大学紀要Vol.9』(2017年) p.186-190

「トポグラフィーとサウンドスケープ」 『情報科学芸術大学院大学紀要Vol.11』(2019年) p.141-150

2016年に刊行された『OS10 アートとメディア・テクノロジーの展望 ICCオープン・スペース10年の記録 2006-2015』(畠中実 [ほか] 編)に寄稿した。「閉じたループの外へ」と題したテキストは、私が近年取り組んできた制作テーマーVR音響と映像メディアによる現実(認識)の「再現」と「合成」一の端緒となっている。VRテクノロジーは「現実」のシミュレーションや再現を可能にするが、見たい現実しか見ない、見たくない現実再現の対象にすらならないという、われわれの認知的な「閉回路」(=閉じたループ)を強化してしまう危険性をもつ。そこで「見過ごされた、見たくない現実」をVRテクノロジーによって再現するという試みを始めた。

具体的には2012年以降、沖縄の米軍基地騒音をVR音響技術によって別の場所において再現するというものだが、そのフィールド録音をもとに2013年の「おおがきビエンナーレ」で『103.1dB』という作品を制作した。そして2017年には日本近代以降の沖縄をめぐる表象と現地でフィールド録音された音響を構成(=合成)し、企画展『場所をつくる旅』(IAMAS ARTIST FILE#5、岐阜県美術館)を開催した。そのときの制作の核となる「イメージの合成」というコンセプトの詳細については「場所をつくる旅について」(情報科学芸術大学院大学紀要Vol.9、p186、2017)を参照されたい。また、日本の近世以降の「場所」の視覚表象と、70年代のマリー・シェーファアの「サウンドスケープ」という概念の接続可能性について議論した、佐藤守弘(視覚文化研究)との対談「トポグラフィーとサウンドスケープ」(情報科学芸術大学院大学紀要Vol.11、p.141、2019)も合わせて参照頂きたい。



東日本電信電話株式会社/  
2016年

## →思い出の一冊

V.E.フランクル著『夜と霧 ドイツ強制収容所の体験記録』(みすず書房, 1985年)

2003年~2004年に文化庁の在外派遣制度によってオランダ・ロッテルダムで滞在制作をしていたとき、別のレジデンス施設にいた日本人の画家と知り合ったのだが、彼がロッテルダムを離れるときになぜか手渡された『夜と霧 ドイツ強制収容所の体験記録』(V.E.フランクル著 霜山徳爾 訳 みすず書房)をじっくりと読むことになった。冬場は日照時間が短いので屋内で読書をするには適した時期だったが、アウシュビッツのホロコーストを生き残った精神科医の実体験を事細かく描いた自伝的内容

はとても重く、堪えた。スティーブン・スピルバーグの映画『シンドラーのリスト』の中で描かれているように、収容所では、朝礼などで「血色が悪い」と判断されると銃殺されてしまうので、ピンで肌を刺しその血を身体中に擦り込む女性たちや、若く見られるように髪に煤を塗り、澆刺と行進してみせる老婦人の話など、これ以外にも筆舌に尽くしがたい収容所の生活が延々と描写されていく。そういった極限状況の中で著者が至った精神的態度については本書だけでなく『それでも人生にイエスと言う』（V.E.フランクル著 山田邦夫 | 松田美佳 訳 春秋社）にまとめられているので、この二冊はセットとして読むべきものと思う。また私はこの読書体験を契機に、ドイツと同様、第二次大戦において侵略国であり敗戦国であった日本の戦前から戦後、そして現在についてより深く知り考えるようになった。



みずず書房 / 1985年

## →学生に薦める一冊

トール・ノーレットランダーシュ『ユーザーイリュージョン 意識という幻想』

(紀伊國屋書店, 2002年)

V・S・ラマチャンドラン, サンドラ・ブレイクスリー『脳の中の幽霊』(角川書店, 1999年)

私としては「一冊」とカウントしたいぐらい、共通する内容をもっている二冊なので同時に紹介したい。ユーザー・イリュージョンとは、マッキントッシュ・コンピュータ等が採用した、デスクトップをメタファとしたヴィジュアル・インターフェイスのことだ。それによってわれわれは、コンピュータ内部のマイクロな電流の流れや作動を気にせず、それらを制御するプログラミングの知識が無くても、コンピュータを操作できるようになった。本書を読んで驚くのは、わたしたちの意識も同じようにこの「メタファ」によって作動しているのだと言う。そしてイリュージョンとしての意識は実際感覚刺激よりも0.5秒遅れて知覚する！「熱い」とか「痛い」という感覚が意識されるまでにそのくらいの時間がかかるというのだが、さらに不思議なのは、実際は0.5秒遅れているのに意識上では遅れているとは認識されない、ということだ。このように意識と感覚、身体の間にはまだまだわかっていないことがたくさんある。

もう一冊の「脳の中の幽霊」では、イリュージョンのことを「幽霊」と呼んでいる。片腕を失った人が、腕が無いにもかかわらず、かゆみや痛みを感じてしまう現象を「幻肢」(ファンタム・リム)と言うが、その原因は、脳の中に失われた身体の記憶、という身体のマップが残ったまま更新されていないからだ。その症状を緩和するには、なんらかの方法で脳の中のマップを更新するしかない。ラマチャンドランが編み出した方法は、残っているほうの腕を鏡に映し、失ったほうの腕があるかのように動かしながら脳のマッピングを修正する、というものだ。

わたしたちはまだ自分の身体のことさえよくわかっていないのに「ノーマル(正常)」とか「ノーマライズ(正常化する)」などという幻想に縛られ過ぎている。個人の身体にはそれぞれひとつの現実があり、それは更新され変化していき、止まることはない。今回紹介した二冊(一冊!)はそのような可能性へと開く視点を与えてくれる。



紀伊國屋書店 / 2002年



角川書店 / 1999年

# 図書館長よりあいさつ

今年度から図書館長になった三輪眞弘です。足繁く図書館に通うのでもなく、読書家でもない私がこのような役を務めることに自分でさえ戸惑いながらも、みなさんと一緒に未来の図書館の姿を夢見ていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

ご存知の方も少なくないと思いますが、IAMASの図書館は産業文化研究センター（RCIC）と並ぶ、IAMASに2つある附置機関のひとつとして位置づけられているもので、地方自治体が地域住民のために運営する図書館とは異なる性格を持っています。つまり、「大学の図書館」ということから、研究者や高度な知識を駆使する実践者のための専門書を中心とした図書館です。

今年度からIAMASには博士後期課程が新設されましたが、その申請書類には  
「図書館（メディアクリエーションセンター）」は、本学博士課程の研究を支援する研究推進の実践的な場として、研究成果の蓄積から学術的な基盤を担い、さらにそれらを学外に発信するとともに、学術的なネットワークによる研究拠点として活動していく”

と謳われており、図書館が単に書籍の貸し出しのための場所だけではなく、IAMASが掲げる「メディア表現学」という新しい学術領域の確立を目指す研究の拠点となることが示唆されています。IAMASの図書館が将来「メディアクリエーションセンター」と呼ばれることになるのかはわかりませんが、図書館という場所を大学におけるひとつの「知の拠点」にしていこうという志が変わることはないでしょう。

パソコンはもとより手元にあるスマートフォンでいくらかでもネット検索ができるようになった今、「図書館で調べ物をする」意味や価値はどこにあるのか。事実、ネット上で電子書籍を読むことも、様々な分野の研究論文や記事を検索することもできる時代です。それでも図書館は必要なのか？・今、図書館の役割そのものが問われており、世界中で様々な試みが続けられています。「貴重な本がタダで借りられるありがたい場所」である基本を踏まえながらも、IAMASは図書館を国際的な研究そして創造活動の場にしていきたいと考えています。応援よろしく申し上げます！

■開館時間 月－木 10:15－19:00 / 金 11:15－20:00

■休館日 土曜日・日曜日・祝日、年末年始、臨時休館日（蔵書点検など）

## ■貸出

- 学生 20冊・3週間以内
- 卒業生 5冊（図書のみ）・2週間以内
- 学外者 2冊（図書のみ）・2週間以内

※新型コロナウイルス感染症対策のため、一部のサービスを変更しています。

- ・開館時間：月－金 12:00－19:00
- ・学外の方（卒業生を含む）の利用禁止
- ・マスクの着用、図書館入口での手指消毒の実施



情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 附属図書館 編集・発行

〒503-0807 岐阜県大垣市今宿6丁目52番地18 ワークショップ24 1F

TEL・FAX: 0584-75-6803 URL: <https://www.iamas.ac.jp/lib/>